

重点目標及び具体的な手段

重点目標 1 児童が主役の授業づくり

- (1) わさびの授業への授業改善を行い、児童に学びのスキルを身に付けさせる。
 - 問いをもち、考え、学び合う授業の実践
(ひなたの授業を一割以上実施)
 - 日々の学習の見届けをこまめに行い、できる喜び(達成感、満足感)を味わわせる。
- (2) 質の高い授業づくりにつながる職員研修を充実させる。
 - 課題解決に向けた研修の設定と校内での OJT を生かした学び合いの場を設定する。
 - オンデマンド研修や出張などの内容を職員に伝達し、指導力の向上を図る。
(研修内容のアウトプット 1 回以上)
- (3) 1人1台端末を活用した学習を充実させる。
 - 主体的、対話的で深い学びの実現や YK 学習に向けて端末の活用を進める。
 - 日常的に端末を活用し、児童及び教師の ICT 活用スキルの向上を図る。
(研究授業の実践)

重点目標 2 自己肯定感をもたせる教育活動

- (1) 道徳の時間の充実を図り、相手を思いやる心を育む。
 - 指導法を工夫し、道徳の授業の充実を図る。
 - 自らの言動を省みる活動をとおり、思いやりの心を育てる。
- (2) 定期的な教育相談と問題への組織的な対応、ポジティブな行動支援を行う。
 - 児童・保護者に寄り添った教育相談を実施する。
 - IF委員会等の事案には、報・連・相の徹底と組織的な対応を行う。
(自分や友達のことを大切にしている児童の割合を増やす。)
- (3) 気持ちのよいあいさつや返事を励行し、温かい人間関係づくりを育む。
 - 日常指導の場での見届けや行動の称賛を行う。
 - 教師自ら率先垂範を示す。
- (4) 特別活動の充実を図り、自分に自信をもち、互いのよさを認める心を育てる。
 - 学校行事や学級活動の充実を図り、望ましい人間関係を築き心理的安全性を保つ。
 - 委員会活動やボランティア活動の充実を図り、児童の活躍の場を設定する。
(学校が楽しいと答える児童の割合 85%以上)

重点目標 3 地域とのつながりと地域への発信

- (1) 地域に関する学習を通して、ふるさと富吉を愛する心を育てる。
 - 学校行事では、地域の人々の思いや願いを考えさせ、地域との連携を深める。
 - 地域行事では、地域の込められた思いを理解させ、積極的な参加を促す。
(地域を好きと答える児童の割合 85%以上)
- (2) 地域人材の活用を図り、教育効果を高める。
 - 学習ボランティアの方々との連携を図り、効果的な人材活用を工夫する。
 - 地域ボランティアの方々への感謝の気持ちをもたせる。
(学習ボランティアなど人材活用年間 100名以上)
- (3) 地域の中の学校としての役割を果たし、積極的な情報発信を行う。
 - 学校ホームページの充実と外部への情報発信を図る。
 - 作品等発表の場を通して、学習成果を伝えるとともに児童に自信(自己有用感)をもたせる。
(ホームページの毎日更新)
- (4) 地域への働きかけを行い、地域とのつながりを深める。
 - 弥五郎どん祭りなど地域や保護者の期待に応え、地域の人、もの、ことへの関わりを深める。
 - 学校から地域へ発信するような学校地域共同の活動を行う。
(地域貢献活動の 1 回以上の実施)

